

## 『聖書学論集』執筆要綱

### 1. 総則

#### A 原稿の形態など

- 1) 原則としてワープロ原稿とする。
- 2) 分量として、注を含めて15,000-20,000字程度。
- 3) 原稿はワードファイル(.doc 或いは.docx) 或いはリッチテキストファイル(.rtf) にして添付ファイルで編集委員に送る。
- 4) その際、PDF ファイルを必ず添付する。PDF 化できない場合は、プリントアウト原稿を編集委員に郵送する。

#### B 使用漢字・数字・句読点など

- 1) 固有名詞・術語以外の表記は常用漢字・現代かなづかいを原則とする。
- 2) 数字表記は次の区分に従う。
  - a) 聖書箇所での表記は半角の算用(アラビア)数字とする(なお下記3・Aも参照)。
  - b) 通常の数詞表記もこれに同じとする。
  - c) 日本語として熟している表現あるいは術語は漢数字とする。  
〔例〕七十人訳、五割、一人、二人三脚、十二弟子

#### C 外国語表記

ギリシア語・ヘブライ語等の表記・引用はなるべく原語で表記する(unicode フォントを使用する)。ローマ字転写で用いる場合の転写法は通則に従い、長音やアクセント記号などを付す。

#### D 外国語の片仮名表記

- 1) 一般に通用している範囲でできるだけ原音に近いと思われる表記とする。
- 2) 「バビブベボ」と「ヴァヴィヴヴェヴォ」は区別して用いる。
- 3) ギリシア語・ラテン語などの片仮名表記の長音(ー)は可能な範囲で省略する。  
〔例〕ソークラテース → ソクラテス

#### E 文章表現

- 1) 文体は「である」調とする(「です・ます」調は用いない)。
- 2) 常用漢字・現代かなづかいを原則とする。接続詞、副詞、助動詞などは、なるべく漢字化しない。
- 3) 反復記号のうち、仮名文字の反復記号(ゝゞ)は用いず、漢字の反復記号(々)は用いる。  
〔例〕×あゝ → ○ああ、×人人 → ○人々

### 2 表題・見出し

#### A 字体の級数は本文と同じで構わない(編集・印刷段階で調整する)。

#### B 表題について

タイトル、サブタイトル、執筆者名を日本語で明記する。

#### C 中見出しの分割のための記号使用は必ず次のオーダーに従う。

- |         |  |
|---------|--|
| 見出しレベル1 | 1、2、3.....(半角)                                 |
| 見出しレベル2 | 1.1、1.2、.....2.1、2.2.....3.1、3.2               |
| 見出しレベル3 | 1.1.1、1.1.2、.....1.2.1、1.2.2、.....2.1.1、2.1.2、 |
- ※どのレベルにおいても数字の後に必ず半角でピリオドを打つこと。

※小題がある場合は（なくても構わない）、半角ピリオドの後に半角スペースを入れて記入する。  
※見出しレベル3を限度とする。

D 箇条書きには、上記オーダーのいずれかを問わず、「・」（中黒）を用いる。

### 3 聖書文書・箇所を表記

#### A 全記・略記の別

1) 本文においては日本聖書学研究所が定めた通りの各文書名（次のB参照）を全記し、章・節の語を付す。

※文脈上、どの文書であるかが明白な場合に限り、文書名の省略を可とする。

※詩篇は篇・節の語を付す。〔例〕詩篇 119 篇 1 節

2) 本文中であっても聖書文書・箇所を括弧内に表記する場合は、必ず略記する。

3) 注においては必ず略記する。

4) 略記の際には、文書と文書の区切りは半角のセミコロン（「;」）、章と節の区切りは半角のコロン（「:」）、章と章の区切りは半角のセミコロン（「;」）、同じ章の節の区切りは半角のコンマ（「,」）で表示する。

〔例〕創 1:15; 2:27; 民 3:1, 9

※文書名の略記と章の間にはスペースを入れない。コロンの後にはスペースを入れない。セミコロンの後には半角スペースを入れる。コンマの後には半角スペースを入れる。

※同じ章の複数の節にまたがる箇所を表記する場合、最初の節と最後の節の間に半角ハイフン（-）を入れる。

〔例〕ローマ書 16 章 17-20 節、ロマ 16:17-20

5) 聖書箇所や頁数表記の際、「f. ff. 以下」は使用しない。

B 旧約・新約聖書（正典）、および外典・偽典（第2正典を含む）、使徒教父文書、ヨセフス、フィロン、ナグ・ハマディ文書、死海文書、ラビ文書の文書名の全記と略記  
日本聖書学研究所ホームページ上の「諸文書略号表」に従う。

※「フィロン」の項目のラテン語による文書名は、執筆者の参考のために表示したものである。論文内で（ ）を用いてこれを表記するかどうかは、執筆者の判断に委ねる。

※死海文書の写本整理番号は、文書名の全記と略記が初出の際に（ ）でこれを表記する。

〔例〕悪霊祓いの詩篇（11Q11） 悪霊詩（11Q11）

### 4 本文および注の地の文で用いるその他の記号など

#### A 引用・強調

1) 地の文で引用する場合は「」で囲う。引用文の後に出典名を記す場合には、「」の外に（ ）で出典名を補う。

2) 長い引用の場合には、前後一行を空けて始める。この場合、「」は用いない。出典名を記す場合には、（ ）で出典名を補う。

3) 強調を必要とする語には、傍点ないし下線を付す。

#### B 人名

1) 歴史上の人物名、聖書等の登場人物名は、それぞれ最も一般的な表記法に従って必ず片仮名表記する（上記1・C, Dも参照）。

2) 欧米系研究者の名前は、参考文献に欧文を用いる場合には原語表記し、参考文献に日本語の訳書を用いる場合には片仮名表記する。前者の場合、初出の際には必ずファーストネームのイニシャルをローマ字（半角）で入れ、ファミリーネームとの間に半角ピリオド「.」と半角スペースを入れる。後者の場合、ファーストネームのイニシャルをローマ字で入れ、ファミリーネームとの間に「・」（中黒）を入れる。

〔例〕W. H. Schmidt、A・シュミット

※上記の例のように、同名異人の間の混乱が生じ得るような場合には、初出の際以外にも終始フ

ファーストネームのイニシャルをローマ字で入れる。

※同一著者の欧文と日本語訳書を用いる場合、同一著者名の原語表記と片仮名表記が混在することになるが、構わない。

〔例〕 G. Theißen によれば……。ところでタイセンは、……

## 5 参考文献

※下記全ての場合において、複数頁数の表記は頁数と頁数の間に半角ハイフンを入れる。

### A 邦文

#### 1) 単行本の場合

a) 初出 → 著者名『書名』〔シリーズ名、〕発行所、発行年（西暦）、頁数

〔例〕 鈴木佳秀『出エジプト記 19-40 章』VTJ 旧約聖書注解、日本キリスト教団出版局、2018 年、90-98 頁

※ 副題は「——」（ダッシュを 2 回使用）で表示する。

b) 再指示 → 著者名字『書名の一部』頁数（「前掲書」等は用いない。以下同じ）

〔例〕 鈴木『出エジプト記』90-98 頁

※ 同姓の者がいる場合も、書名の一部によって区別ができるため、姓のみの表記でかまわない。

※ 第 2 版以降のもので、初版と比べ内容やページ数が大きく変化しているなど特に明記する必要がある場合は、版数を発行年の後の括弧内に表記する。

〔例〕 1999 年（2 版）、

#### 2) 翻訳書の場合

a) 初出 → 著者名『書名』〔シリーズ名、〕訳者名、発行所、発行年（西暦）、頁数

〔例〕 U・ヴィルケンス『ローマ人への手紙（1-5 章）』EKK 新約聖書註解 V1/1、岩本修一訳、教文館、1984 年、10-25 頁

※ 原著の書誌情報は原則として併記しないが、執筆者の判断で併記することは妨げない。

b) 再指示 → 著者ファミリーネーム『書名の一部』頁数

#### 3) 単行本所収の論文等の場合

a) 初出 → 執筆者名「論文名」（所収単行本編者名『書名』〔シリーズ名、〕発行所、初版発行年（西暦）、論考全体の頁数）、該当頁数

〔例〕 大貫隆「社会学・社会史学派のイエス研究」（大貫隆・佐藤研〔編〕『イエス研究史——古代から現代まで』日本キリスト教団出版局、1998 年、257-279 頁）、263 頁

※ 編著者が 2 名までは両者の氏名全記、3 名以上の場合は 1 名を挙げ（原則としてあいうえお順で最初の者）「ほか」の語を付す。

〔例〕 辻学「資料・様式・編集」（浅野淳博ほか『新約聖書解釈の手引き』…

b) 再指示 → 執筆者名字「論文名の一部」、頁数

※ 同一著者による論文集は原則として単行本として扱うが（上記 1）、論文として扱うこともできる。

〔例〕 佐藤研『はじまりのキリスト教』…、127 頁

↓下記も可

佐藤研「アポロ伝承小史」（同『はじまりのキリスト教』…、113-26 頁）、127 頁

※単行本のかたちをとる論文集（祝賀論文集など）所収の論文は、原則として単行本所収の論文として扱う。

#### 4) 紀要等所収の論文等の場合

a) 初出 → 執筆者名「論文名」（『雑誌名』号数、発行年、全体の頁数）、該当頁数

〔例〕 三浦望「I ヨハネ書における定型句表現」（『新約学研究』第 46 号、2018 年、7-31 頁）、30 頁

b) 再指示 → 執筆者名字「論文名の一部」頁数

〔例〕 三浦「定型句表現」30 頁

※上記全ての場合の再指示において、「前掲書」、「前掲論文」などの表記は不可とする。

## B 欧文（原則としていわゆる SBL 方式）

### 1) 単行本

- a) 初出 → 著者名, 書名 [, シリーズ名 通巻番号] (発行地: 発行所, 発行年), 頁数

〔例〕 M. Weinfeld, *The Promise of the Land: The Inheritance of the Land of Canaan by the Israelites*, Taubman Lectures in Jewish Studies 3 (Berkeley: University of California Press, 1993), 1-51.

※頁数に p、pp、Sなどは用いない。

※書名は、著作言語を問わず必ずイタリックにする。

※副題は本題の最後にコロン (:) を付して表記する。ピリオド(.)は不可。

- b) 再指示 → 著者ファミリーネーム、書名の一部 (必ずイタリック)、頁数

〔例〕 Weinfeld, *Promise of the Land*, 1-12.

※op. cit.や ibid.は用いない。

※日本語の訳書がある場合、原則として訳書を用いることが望ましい。

### 2) 単行本所収の論文

- a) 初出 → 執筆者名, “論文名,” in 書名, 編者 [, シリーズ名 通巻番号] (発行地: 発行所, 発行年, 全体の頁数), 頁数

〔例〕 P. von Gemünden, “Affekte und Affektkontrolle im antiken Judentum und Urchristentum,” in *Erkennen und Erleben: Beiträge zur psychologischen Erforschung des frühen Christentums*, ed. G. Theißen and P. von Gemünden (Gütersloh: Gütersloher Verlagshaus, 2007, 249-269), 250.

※ 何語で書かれている場合も、基本的に英語式 (in、ed、trans など) で表記する。

※ 編者が3名以上の場合には代表者1名を挙げた上で、ed. oo et. al. とする。

〔例〕 B. Holmberg, “Was Jesus Humble?” in *Jesus – Gestalt und Gestaltungen: Rezeptionen des Galiläers in Wissenschaft, Kirche und Gesellschaft*, ed. P. von Gemünden et al., NTOA 100 (Göttingen: Vandenhoeck & Ruprecht, 2013, 15-28), 16-20.

※ 同一著者による論文集所収の論文は原則として単行本所収の論文として扱うこと。

- b) 再指示 → 執筆者ファミリーネーム, 論文名の一部, 頁数

〔例〕 von Gemünden, “Affekte und Affektkontrolle,” 249.

### 3) 雑誌等所収の論文

- a) 初出 → 執筆者名, “論文名,” 雑誌名略記 号数 (発行年, 全体の頁数), 頁数

〔例〕 N. Lohfink, “Dt 26,17-29 und die ‘Bundesformel’,” *ZThK* 91 (1969, 517-553), 520.

※ 雑誌名・辞書名は IATG3 もしくは The SBL Handbook of Style に従って略記する。

- b) 再指示 → 執筆者名, 論文名の一部, 頁数

〔例〕 Lohfink, “Dt 26,17-29,” 520.

## C インターネット上のホームページについて

インターネット上のホームページを参考元として指示する場合には、URL と閲覧年月日を明記すること。インターネット上でのみ公開されている報告書等の文書の場合は、著者の氏名や機関名「文書のタイトル」、報告書名の順に記し、その後に URL と閲覧年月日を明記する。

## D 電子書籍

電子書籍からの引用は、事前に編集委員に相談すること。

## E 図版類

図版類を論文に挿入する場合、原則として10点を上限とする。それを超える場合は事前に編集委員に相談すること。なお、図版掲載に著作権上の必要な手続きがある場合は、執筆者の責任において事前に済ませておくこと。執筆者がこれを怠った場合に生じる問題について聖書学研究所は一切の責任を負わないので、十分注意すること。画像ファイルの種類について事前に編集委員と打ち合わせること。また、図版は論文内該当箇所には張り付けた上で、さらに図版のみの画像ファイルも編集委員に提出す

ること。

## 諸文書略号表

### 旧約聖書

※「律法」、「預言者」、「諸書」の順

創	創世記	エゼ	エゼキエル書	詩	詩篇
出	出エジプト記	ホセ	ホセア書	ヨブ	ヨブ記
レビ	レビ記	ヨエ	ヨエル書	箴	箴言
民	民数記	アモ	アモス書	ルツ	ルツ記
申	申命記	オバ	オバデヤ書	雅	雅歌
ヨシ	ヨシュア記	ヨナ	ヨナ書	コヘ	コーヘレト書
士	士師記	ミカ	ミカ書	哀歌	哀歌
サム上	サムエル記上	ナホ	ナホム書	エス	エステル記
サム下	サムエル記下	ハバ	ハバクク書	ダニ	ダニエル書
王上	列王記上	ゼファ	ゼファニヤ書	エズ	エズラ記
王下	列王記下	ハガ	ハガイ書	ネヘ	ネヘミヤ記
イザ	イザヤ書	ゼカ	ゼカリヤ書	代上	歴代誌上
エレ	エレミヤ書	マラ	マラキ書	代下	歴代誌下

### 新約聖書

マタ	マタイ福音書	マタイによる福音書	テト	テトス書	テトスへの手紙
マコ	マルコ福音書	マルコによる福音書	フィレ	フィレモン書	フィレモンへの手紙
ルカ	ルカ福音書	ルカによる福音書	ヘブ	ヘブル書	ヘブル人への手紙
ヨハ	ヨハネ福音書	ヨハネによる福音書	ヤコ	ヤコブ書	ヤコブの手紙
使		使徒行伝	Iペト	Iペトロ書	ペトロの第一の手紙
ロマ	ロマ書	ローマ人への手紙	IIペト	IIペトロ書	ペトロの第二の手紙
Iコリ	Iコリント書	コリント人への第一の手紙	Iヨハ	Iヨハネ書	ヨハネの第一の手紙
IIコリ	IIコリント書	コリント人への第二の手紙	IIヨハ	IIヨハネ書	ヨハネの第二の手紙
ガラ	ガラテヤ書	ガラテヤ人への手紙	IIIヨハ	IIIヨハネ書	ヨハネの第三の手紙
エフェ	エフェソ書	エフェソ人への手紙	ユダ	ユダ書	ユダの手紙
フィリ	フィリピ書	フィリピ人への手紙	黙	黙示録	ヨハネの黙示録
コロ	コロサイ書	コロサイ人への手紙			
Iテサ	Iテサロニケ書	テサロニケ人への第一の手紙			
IIテサ	IIテサロニケ書	テサロニケ人への第二の手紙			
Iテモ	Iテモテ書	テモテへの第一の手紙			
IIテモ	IIテモテ書	テモテへの第二の手紙			

## 旧約外典

I エズ	第一エズラ記	エレ手紙	エレミヤの手紙
I マカ	第一マカバイ記	マナセ	マナセの祈り
II マカ	第二マカバイ記	ダニ付	ダニエル書への付加
トビ	トビト記	スザンナ	スザンナ
ユディト	ユディト記	三人の祈り	アゼリヤの祈りと燃える炉の中の三人の祈り
ソロ知恵	ソロモンの知恵	ベル	バビロンのベルとバビロンの龍
ベン・シラ	ベン・シラの知恵	エス付	エステル記への付加
バルク	バルク書		

## 旧約偽典

アリスト	アリストアスの手紙	ゼブ遺	ゼブルンの遺訓
III マカ	第三マカバイ記	ダン遺	ダンの遺訓
IV マカ	第四マカバイ記	ナフ遺	ナフタリの遺訓
シビュラ	シビュラの託宣	ガド遺	ガドの遺訓
スラブ・エノク	スラブ語エノク書	アシェ遺	アシェルの遺訓
ヨベ	ヨベル書	ヨセ遺	ヨセフの遺訓
ヨセ・アセ	ヨセフとアセナテ	ベニ遺	ベニヤミンの遺訓
エチ・エノク	エチオピア語エノク書	ソロ詩	ソロモンの詩篇
アブ遺	アブラハムの遺訓	IV エズ	第四エズラ記
ヨブ遺	ヨブの遺訓	エレ余禄	エレミヤ余禄
十二遺	十二族長の遺訓	シリア・バルク	シリア語バルク黙示録
ルベ遺	ルベンの遺訓	ギリシア・バルク	ギリシア語バルク黙示録
シメ遺	シメオンの遺訓	モセ昇 (遺)	モーセの昇天 (遺訓)
レビ遺	レビの遺訓	預言生涯	預言者の生涯
ユダ遺	ユダの遺訓	アダ・エバ	アダムとエバの生涯
イッサ遺	イッサカルの遺訓		

## 新約外典

ファイ断片	ファイユーム断片	幼時物語	トマスによるイエスの幼時物語
V エズ	第五エズラ記	ペト福	ペトロ福音書
VI エズ	第六エズラ記	ニコ福	ニコデモ福音書
ナザ福	ナザレ人福音書	イザ殉	イザヤの殉教と昇天
エビ福	エビオン人福音書	ラオ手紙	ラオデキア人への手紙
へブ福	へブル人福音書	使徒手紙	使徒たちの手紙
エジ福	エジプト人福音書	III コリ	コリント人への第三の手紙
ヤコ原福	ヤコブ原福音書	往復書簡	セネカとパウロの往復書簡

偽テト	偽テトスの手紙	アン行	アンデレ行伝
パウ黙	パウロの黙示録	トマ行	トマス行伝
ロギオン	フリア・ロギオン	ペト宣	ペトロの宣教
ヨハ行	ヨハネ行伝	ペト黙	ペトロの黙示録
ペト行	ペトロ行伝	宣教集	ペトロの宣教集
パウ行	パウロ行伝	ソロ頌	ソロモンの頌歌

## 使徒教父文書

Iクレ	Iクレメンツ書	ポリュ殉	ポリュカルポス殉教物語
IIクレ	IIクレメンツ書	ディダ	ディダケー
イグナティオス書簡		バル手	バルナバの手紙
イグ・エフェ	エフェソ人への手紙	ヘルマスの牧者	
イグ・マグ	マグネシア人への手紙	ヘル幻	幻
イグ・トラ	トラレス人への手紙	ヘル戒	戒め
イグ・ロマ	ローマ人への手紙	ヘル喩	喩え
イグ・フィラ	フィラデルフィア人への手紙	ディオ手	ディオグネトスへの手紙
イグ・スミュ	スミュルナ人への手紙	パピ断	パピアス断片
イグ・ポリュ	ポリュカルポスへの手紙	クア断	クアドラトゥス断片
ポリュ・フィリ	ポリュカルポスからフィリピ人への手紙		

## ヨセフス

古誌	ユダヤ古代誌
戦記	ユダヤ戦記
アピ	アピオンへの反論
自伝	自伝

## フィロン

創造	世界の創造 (De opificio mundi)	巨人族	巨人族 (De gigantibus)
律・寓	律法の寓意的解釈 (Legum allegoriae)	神	神の不動性 (Quod Deus sit immutabilis)
ケルビ	ケルビム (De cherubim)	農耕	農耕 (De agricultura)
供え物	アベルとカインの供え物 (De sacrificiis Abelis et Caini)	栽培	栽培 (De plantatione)
劣者	劣者の奸計 (Quod deterius potiori insidiari soleat)	酩酊	酩酊 (De ebrietate)
子孫	カインの子孫 (De posteritate Caini)	覚醒	覚醒 (De sobrietate)



混乱	言語の混乱 (De confusione linguarum)	自由	自由論 (Quod omnis probus liber sit)
移住	アブラハムの移住 (De migratione Abrahami)	観想	観想的生活 (De vira contemplativa)
相続人	神のものの相続人 (Quis rerum divinarum heres sit)	不滅性	世界の不滅性 (De aeternitate mundi)
交わり	予備教育との交わり (De congressu eruditionis gratia)	フ反論	フラックスへの反論 (In Flaccum)
逃亡	逃亡と発見 (De fuga et inventione)	ガ使節	ガイウスへの使節 (Legatio ad Gaium)
改名	改名 (De mutatione nominum)	ヒュポ	弁明
夢	夢 (De somnis)	ヒュポテティカ	ユダヤ人のための弁明
アブラ	アブラハム (De Abrahamo)		(Hypothetica/Apologia pro Iudaeis)
ヨセ	ヨセフ (De Iosepho)	摂理	摂理 (De providentia)
モーセ	モーセの生涯 (De vita Mosis)	動物論	動物論 (アレクサンデル)
十戒	十戒総論 (De Decalogo)		(Alexander sive de eo quod rationem habeant bruta animalia)
律・詳	律法詳論 (De specialibus legibus)	創・問	創世記問答 (Quaestiones et solutiones in Genesim)
徳論	徳論 (De virtutibus)	出・問	出エジプト記問答 (Quaestiones et solutiones in Exodum)
賞罰	賞罰 (De praemiis et poenis)		

## ナグ・ハマディ文書

〔写本Ⅰ〕		〔写本Ⅳ〕	
パウ祈	使徒パウロの祈り	ヨハ・アポⅣ	ヨハネのアポクリュフォン
ヤコ・アポ	ヤコブのアポクリュフォン	エジ福Ⅳ	エジプト人の福音書
真福	真理の福音		
復活	復活に関する教え	〔写本Ⅴ〕	
三部教	三部の教え	エウⅤ	エウグノストス
		パウ黙	パウロの黙示録
〔写本Ⅱ〕		I ヤコ黙	ヤコブの黙示録一
ヨハ・アポⅡ	ヨハネのアポクリュフォン	II ヤコ黙	ヤコブ黙示録二
トマ福	トマスによる福音書	アダ黙	アダムの黙示録
フィリ福	フィリポによる福音書		
アルコ	アルコーンの本質	〔写本Ⅵ〕	
起源Ⅱ	この世の起源について	十二伝	ペトロと十二使徒の行伝
魂	魂の解明	雷	雷・全きヌース
闘技者	闘技者トマスの書	真正教	真正な教え
		力	われらの大いなる力の概念
〔写本Ⅲ〕		国家	プラトン『国家』断片
ヨハ・アポⅢ	ヨハネのアポクリュフォン	「八と九」	第八のもの (オグドアス) と 第九のもの (エンネアス)
エジ福Ⅲ	エジプト人の福音書	感謝	感謝の祈り
エウⅢ	聖なるエウグノストス	アスク	アスクレピオス
知恵Ⅲ	イエスの知恵		
対話	救い主の対話		
		〔写本Ⅶ〕	

シェーム	シェームの釈義	解説・洗 A	洗礼について A
セツ教	大いなるセツの第二の教え	解説・洗 B	洗礼について B
ペト黙	ペトロの黙示録	解説・聖 A	聖餐について A
シル教	シルヴァノスの教え	解説・聖 B	聖餐について B
柱	セツの三つの柱	アロゲ	アロゲネース
		ヒュブ	ヒュブシフロネー

〔写本Ⅷ〕

ソス	ソストゥリアノス
フィペ手	フィリポに送ったペトロの手紙

〔写本Ⅸ〕

メルキ	メルキゼデク
ノレア	ノレアの思想
真証	真理の証言

〔写本Ⅹ〕

マルサ	マルサネース
-----	--------

〔写本Ⅺ〕

知識	知識の解明
解説	ヴァレンティノス派の解説
解説・塗油	塗油について

〔写本Ⅻ〕

金言	セクストゥスの金言
真福断片	真理の福音断片
断片	断片

〔写本 XIII〕

三プロ	三体のプロテーノイア
起源 XIII	この世の起源について

〔ベルリン写本 (BG8502)〕

マリ福	マリヤによる福音書
ヨハ・アポ B	ヨハネのアポクリュフォン
知恵 B	イエス・キリストの知恵
ペト行 B	ペトロの行伝

## 死海文書

※整理番号順

ダマ	ダマスコ文書	CD	巨人	巨人の書	1Q23-34
			教訓	教訓	1Q26
			秘義	秘義	1Q27
〔1Q (第一洞穴)〕			会衆	会衆規定	1Q28a (1QSa)
感謝詩	感謝の詩篇	1QH <sup>a</sup>	祝福	祝福の言葉	1Q28b (1QSB)
ハバ・ペ	ハバクク書ペシエル	1QpHab	火舌	火の舌または	
共規	共同体の規則	1QS		モーセ・アポクリュフォン	1Q29
ミカ・ペ	ミカ書ペシエル	1Q14	新エル	新しいエルサレム	1Q32
ゼファ・ペ	ゼファニヤ書ペシエル	1Q15	戦い	戦いの巻物	1Q33 (1QM)
詩・ペ	詩篇ペシエル	1Q16	祭日祈	祭日の祈り	1Q34+34bis
ヨベ	ヨベル書 (ヘブライ語)	1Q17-18	感謝詩	感謝の詩篇	1Q35
ノア	ノア書	1Q19+1Q19bis			
創アポ	創世記アポクリュフォン	1Q20			
レビ遺	レビの遺訓	1Q21	〔2Q (第二洞穴)〕		
モセ言	モーセの言葉	1Q22	ヨベ	ヨベル書 (ヘブライ語)	2Q19-20

モセ・アポ	モーセ・アポクリュフォン	2Q21	巨人	巨人の書 (アラム語)	4Q206 2-3
物語と詩	物語と詩的作品	2Q22	天文	エノク書天文部	4Q208-211
新エル	新しいエルサレム	2Q24	エノク	エノク書 (アラム語)	4Q212
巨人	巨人の書	2Q26	レビ遺	レビの遺訓 (アラム語)	4Q213, 213a, 213b, 214, 214a, 214b
〔3Q (第三洞穴)〕			ナフ	ナフタリ	4Q215
イザ・ペ	イザヤ書ペシエル	3Q4	正義時	正義の時	4Q215a
ヨベ	ヨベル書 (ヘブライ語)	3Q5	ヨベ	ヨベル書 (ヘブライ語)	4Q216-224
ユダ遺	ユダの遺訓	3Q7	偽ヨベ	偽ヨベル書	4Q225-228
〔4Q (第四洞穴)〕			ナポ	ナポニドゥスの祈り	4Q242
詩・外	詩篇外典	4Q88	偽ダニ	偽ダニエル書	4Q243-245
ヨシ敷	ヨシユア記敷衍	4Q123	ダニ・アポ	ダニエル書	
出パラ	出エジプト記パラフレイズ	4Q127		アポクリュフォン	4Q246
聖書パラ	聖書パラフレイズ	4Q158	歴文 A	歴史文書 A	4Q248
布告	布告	4Q159	会衆	会衆規定	4Q249a-i
サム・アポ	サムエルのアポクリュフォン	4Q160	ハラ A	ハラハーA	4Q251
イザ・ペ	イザヤ書ペシエル	4Q161-165	創注 A	創世記注解 A	4Q252
ホセ・ペ	ホセア書ペシエル	4Q166-167	創注 B	創世記注解 B	4Q253
ミカ・ペ	ミカ書ペシエル	4Q168	マラ注	マラキ書注解	4Q253a
ナホ・ペ	ナホム書ペシエル	4Q169	創注 C	創世記注解 C	4Q254
ゼファ・ペ	ゼファニヤ書ペシエル	4Q170	創注 D	創世記注解 D	4Q254a
詩・ペ	詩篇ペシエル	4Q171, 173	共規	共同体の規則	4Q255-264 (4Q <sup>25j</sup> )
フロ	フロリレギウム	4Q174	ハラ B	ハラハーB	4Q264a
テス	テストイモニア	4Q175	諸規則	諸規則	4Q265
タン	タンフミーム	4Q176	ダマ	ダマスコ文書	4Q266-273 (4QD <sup>a-b</sup> )
ヨベ	ヨベル書 (ヘブライ語)	4Q176a	清潔 A	清潔規定 A	4Q274
カテ	カテナ	4Q177, 178	共セレ	共同体セレモニー	4Q275
外典哀 A	外典哀歌 A	4Q179	清潔 B	清潔規定 B <sup>a-b</sup>	4Q276-277
創時	創世時代	4Q180-181	清潔 C	清潔規定 C	4Q278
カテ	カテナ	4Q182	四籤	四つの籤	4Q279
終末	終末積義	4Q183	呪詛 (メルキ)	呪詛 (メルキレシヤア)	4Q280
邪悪	邪悪な女の策略	4Q184	浄め	浄めの典礼	4Q284
知恵言	知恵の言葉	4Q185	収穫	収穫	4Q284a
ホロ	ホロスコープ	4Q186	戦い書	戦いの書	4Q285
トビ	トビト書 (アラム語)	4Q196-199	ベラ	ベラホート	4Q286-290
トビ	トビト書 (ヘブライ語)	4Q200	知恵 B	知恵の教え B	4Q294
エノク	エノク書 (アラム語)	4Q201-202	賢者	暁の子らに、賢者の言葉	4Q298
巨人	巨人の書 (アラム語)	4Q203	秘義	秘義	4Q299-301
エノク	エノク書 (アラム語)	4Q204-207	誤る民	誤る民	4Q306
			ハラ書	ハラハー書簡	

		4Q313 (4QMMT <sup>g?</sup> )	エレ・アポ C	エレミヤ書	
月盈	月の盈欠	4Q317		アポクリュフォン C <sup>c-e</sup>	
十二宮	月と十二宮	4Q318			4Q388a; 4Q389; 4Q390
しるし	しるし	4Q319	神業	神の諸々の業	4Q392
祭暦	祭司暦	4Q320-321, 321a	告白	共同の告白	4Q393
ミシュマ	ミシュマロット	4Q322-324, 324a, 324c	暦文	暦文書	4Q394 1-2
儀暦	儀礼暦	4Q324d-f	ハラ書	ハラハー書簡	
祭暦	祭司暦	4Q 324g, 324h			4Q394-399 (4QMMT <sup>a-f</sup> )
ミシュマ	ミシュマロット	4Q324i	安息歌	安息日供犠の歌	4Q400-407
祭暦	祭司暦	4Q325	モセ・アポ	モーセ・アポクリュフォン	4Q408
暦文	暦文書	4Q326	典礼文 A	典礼文書 A	4Q409
ミシュマ	ミシュマロット		知恵詩 B	知恵の詩 B	4Q411
		4Q328-329, 329a, 330	知恵 A	知恵の教え A	4Q412
祭暦	祭司暦	4Q337	摂理	神の摂理	4Q413
改五	改訂五書	4Q364-367	浄め A	浄めの儀礼 A	4Q414
神殿	神殿の巻物	4Q365a (4QT <sup>a</sup> )	教訓	教訓	4Q415-418, 418a, 418c
五書アポ	五書アポクリュフォン	4Q368			※但し、4Q415 は教訓一、4Q416 は教訓二、4Q417 は教訓三、4Q418 は教訓四として示してもよい。
エノシュ	エノシュの折り	4Q369			
洪水	洪水に基づく説論	4Q370	教訓類 A	教訓類似文書 A	4Q419
物語と詩	物語と詩的作品	4Q371-373, 373a	正義道	正義の道	4Q420-421
出講	出エジプトについての講話／		創出パラ	創世記-出エジプト記	
	征服伝承	4Q374		パラフレイズ	4Q422
モセ・アポ	モーセ・アポクリュフォン	4Q375-376	教訓	教訓	4Q423
五書アポ	五書アポクリュフォン	4Q377	教訓類 B	教訓類似文書 B	4Q424
ヨシ・アポ	ヨシユア記		知恵 B	知恵の教え B	4Q425
	アポクリュフォン	4Q378-379	知恵詩 A	知恵の詩 A	4Q426
外典詩 A-B	外典詩篇 A-B	4Q380-381	感謝詩	感謝の詩篇	4Q427-431/471b, 432
列パラ	列王記パラフレイズ	4Q382	感謝詩類 A	感謝の詩篇類似文書 A	4Q433
エレ・アポ A	エレミヤ書		感謝詩類 B	感謝の詩篇類似文書 B	4Q433a
	アポクリュフォン A	4Q383	バル	バルキ・ナフシ	4Q434-438
エレ・アポ B	エレミヤ書		感謝詩類 C	感謝の詩篇類似文書 C	4Q440
	アポクリュフォン B	4Q384	感謝詩類 D	感謝の詩篇類似文書 D	4Q440a
エレ・アポ C	エレミヤ書		呪文	呪文	4Q444
	アポクリュフォン C <sup>a</sup>	4Q385a	外典詩祈	外典詩篇と祈り	4Q448
偽エゼ	偽エゼキエル書	4Q385, 385c, 386	ナラ A	ナラティヴ A	4Q458
エレ・アポ C	エレミヤ書		ナラ・作品 (レバノン)	ナラティヴ作品 (レバノン)	
	アポクリュフォン C <sup>b</sup>	4Q387			4Q459
エレ・アポ C	エレミヤ書		ナラ・作品と祈り	ナラティヴ作品と祈り	4Q460
	アポクリュフォン C <sup>f</sup>	4Q387a	ナラ B	ナラティヴ B	4Q461
偽エゼ	偽エゼキエル書	4Q388	ナラ C	ナラティヴ C	4Q462

ナラ D	ナラティヴ D	4Q463	ユダ遺	ユダの遺訓 (アラム語)	4Q538
ナラ E	ナラティヴ E	4Q464a	ヨセ遺	ヨセフの遺訓	4Q539
族長	族長たちについて	4Q464	レビ・アポ	レビ・アポクリュフォン	4Q540-541
ナラ・ヤコブの光	「ヤコブの光」テキスト	4Q467	ケハ遺	ケハトの遺訓	4Q542
戦い関連 B	戦いの巻物関連文書 B	4Q471	アム幻	アムラムの幻	4Q543-549
論争	論争テキスト	4Q471a	ペル宮	ペルシア宮廷のユダヤ人	4Q550
ハラ C	ハラハーC	4Q472a	ダニ・スザ	ダニエル書スザンナ	4Q551
道	二つの道	4Q473	四王	四つの王国	4Q552-553, 553a
ラヘ・ヨセ	ラヘルとヨセフに 関するテキスト	4Q474	新エル	新しいエルサレム	4Q554, 554a, 555
新地	新しい地	4Q475	聖年	聖書年代記	4Q559
典礼文 B-C	典礼文書 B-C	4Q476-476b	呪禱	呪禱	4Q560
叱責	叱責	4Q477	ホロ	ホロスコープ (アラム語)	4Q561
エリ・アポ	エリシャ・ アポクリュフォン	4Q481a	知恵まと	知恵のまとまり	4Q563
ヨベ	ヨベル書 (ヘブライ語)	4Q482?	アラ箴	アラム語箴言	4Q569
ユダ遺	ユダの遺訓 (ヘブライ語)	4Q484	天ミカ	天使ミカエルの言葉	4Q571
教訓類	教訓類似文書	4Q486, 487	アラ遺	アラム語遺訓	4Q580-582
戦い	戦いの巻物	4Q491-496 (4QM <sup>d-f</sup> )	アラ遺	アラム語遺訓	4Q587
戦い関連 A	戦いの巻物関連文書 A	4Q497	詩・外	詩篇外典	4Q88
外典哀 B	外典哀歌 B	4Q501	[5Q (第五洞穴)]		
結婚儀	結婚儀礼	4Q502	ヨシ・アポ	ヨシユア記 アポクリュフォン?	5Q9
日ごと祈	日ごとの祈り	4Q503	マラ・アポ	マラキ書	
光体	光体の言葉	4Q504		アポクリュフォン	5Q10
祭日祈	祭日の祈り	4Q505	共規	共同体の規則	5Q11 (5QS)
光体	光体の言葉	4Q506	ダマ	ダマスコ文書	5Q12 (5QD)
祭日祈	祭日の祈り	4Q507-509	規則	規則	5Q13
賢者詩	賢者の詩編	4Q510-511	呪詛 (メルキ)	呪詛 (メルキレシヤア)	5Q14
浄め B	浄めの儀礼 B	4Q512	新エル	新しいエルサレム	5Q15
布告	布告	4Q513-514	[6Q (第六洞穴)]		
イザ・ペ	イザヤ書ペシエル	4Q515	巨人	巨人の書	6Q8
メシ黙	メシア黙示	4Q521	サム王・アポ	サムエル記-列王記	
ヨシ預	ヨシユアの預言	4Q522		アポクリュフォン	6Q9
ヨナタン	ヨナタン	4Q523	寓喩	葡萄の木の寓喩	6Q11
神殿	神殿の巻物	4Q524 (4QT <sup>b</sup> )	祭司預	祭司の預言	6Q13
幸い	幸いなる者	4Q525	巨人	巨人の書	6Q14
天ミカ	天使ミカエルの言葉	4Q529	ダマ	ダマスコ文書	6Q15 (6QD)
巨人	巨人の書	4Q530-533	厄除け	厄除けの祈り	6Q18
ノア生	ノアの生誕	4Q534-536			
ヤコ遺	ヤコブの遺訓	4Q537			

〔7Q (第七洞穴)〕

エノク	エノク書 (ギリシア語)	7Q4
エノク	エノク書 (ギリシア語)	7Q8
エノク	エノク書 (ギリシア語)	7Q11-12

〔8Q (第八洞穴)〕

呪文儀	呪文の儀礼	8Q5
-----	-------	-----

〔11Q (第十一洞穴)〕

詩・外	詩篇外典	11Q5-6
悪霊詩	悪霊祓いの詩編	11Q11
ヨベ	ヨベル書 (ヘブライ語)	11Q12
メルツェ	メルキツェデク	11Q13
戦い書	戦いの書	11Q14
安息歌	安息日供犠の歌	11Q17
新エル	新しいエルサレム	11Q18
神殿	神殿の巻物	11Q19-21 (11QT <sup>a-c</sup> )

ヨベ	ヨベル書 (ヘブライ語)	XQ5a
エノク	エノク書	XQ8
銅板	銅板巻物	

マサ・安息歌	マサダ・安息日供儀の歌	Masada1039-200
マサ・ヨシ・アボ	マサダ・ヨシユア記アボクリュフォン	Masada 1039-211
マサ・創・アボ	マサダ・創世記アボクリュフォン	Masada 1045-1350, 1375

## ラビ文書

### ミシュナー

#### ズライーム篇

ブラホ	ブラホット
ペア	ペアー
ドウマ	ドウマイ
キルア	キルアイム
シュヴィ	シュヴィイート
トゥルモ	トゥルモット
マアス	マアスロット
マア・シェニ	マアセル・シェニー
ハラ	ハラー
オルラ	オルラー
ビク	ビクリーム

#### モエード篇

シャバ	シャバット
エルヴィ	エルヴィーン
ペサ	ペサヒーム
シュカ	シュカリーム
ヨマ	ヨマー
スカ	スカー
ベツァ	ベツァー (ヨーム・トーヴ)
ロシュ	ロシュ・ハシャナー
タア	タアニート
メギラ	メギラー
モ・カタ	モエード・カタン
ハギガ	ハギガー

#### ナシーム篇

イエヴァ	イエヴァモット
クトゥ	クトゥボット
ネダ	ネダリーム
ナズィ	ナズィール
ソタ	ソター
ギティ	ギティーン
キドゥ	キドゥシーン

#### ネズィキーン篇

バ・カマ	バヴァ・カマ
------	--------

バ・メツイ	バヴァ・メツィア
バ・パト	バヴァ・パトラ
サンヘ	サンヘドリン
マコト	マコット
シュヴオ	シュヴオット
エドゥ	エドゥヨット
アヴォ・ザラ	アヴォダー・ザラー
アヴォト	アヴォット
ホラヨ	ホラヨット

#### コダシーム篇

ズヴァ	ズヴァヒーム
メナホ	メナホット
フリ	フリン
ブホロ	ブホロット
アラヒ	アラヒーン
トゥムラ	トゥムラー
クリト	クリトット
メイラ	メイラー
タミド	タミード
ミドト	ミドット
キニム	キニーム

#### トホロット篇

ケリム	ケリーム
オホロ	オホロット
ネガ	ネガイーム
パラ	パラー
トホロ	トホロット
ミクヴァ	ミクヴァオット
ニダ	ニダー
マフシ	マフシリーン
ザヴィ	ザヴィーム
トゥヴ・ヨム	トゥヴァール・ヨーム
ヤダ	ヤダイム
ウクツィ	ウクツィ

トセフタ (T) , バビロニア・タルムード (BT) , パレスチナ・タルムード (PT) については, ミシュナーの略語にそれぞれのアルファベットを付して区別する。

### ミドラシュ・ラバー他

#### ミドラシュ・ラバー

創R	創世記 (ベレシート) ・ラバー
出R	出エジプト記 (シェモート) ・ラバー
レビR	レビ記 (ヴァイクラー) ・ラバー
民R	民数記 (ベミドバル) ・ラバー
申R	申命記 (デヴァリーム) ・ラバー
雅R	雅歌 (シール・ハシリーム) ・ラバー / アガダット・ハズィタ
ルツR	ルツ記・ラバー
哀R	哀歌・ラバー / ミドラシュ・エハー / エハー・ラバティ
コヘR	コヘレト・ラバー / ミドラシュ・コヘレト
ミド・エス	ミドラシュ・エステル

#### スイフレー

民スイフ	民数記スイフレー
申スイフ	申命記スイフレー

#### 他

メギ・タア      メギラット・タアニート

### 出典

#### ・旧約聖書、新約聖書

新約聖書翻訳委員会 (訳) 『新約聖書』岩波書店、2004 年。

#### ・旧約外典、旧約偽典、新約外典

死海文書翻訳委員会 (訳) 『共同体の規則・終末規定』死海文書 I、ぶねうま舎、2020 年、xiv-xvi 頁。

#### ・使徒教父文書、ヨセフス

浅野淳博 『ガラテヤ書簡』NTJ 新約聖書注解、日本キリスト教団出版局、2017 年、8-9 頁。

#### ・フィロン

(全記) 野町啓・田子多津子 (訳) 『世界の創造』ユダヤ古典叢書、教文館、2007 年、vi 頁。

(略記) 加藤哲平氏作成。

#### ・ナグ・ハマディ文書

荒井献・大貫隆 (編) 『救済神話』ナグ・ハマディ文書 I、岩波書店、1997 年、xxi 頁。

#### ・死海文書

死海文書翻訳委員会 (訳) 『共同体の規則』 xvii-xxi 頁。

#### ・ラビ文献

E・シューラー 『イエス・キリスト時代のユダヤ民族史I』小河陽訳、教文館、2012 年、5-6 頁。